

# News Release



平成24年10月1日

## 平成24年度 博士課程教育リーディングプログラムに採択

このたび、文部科学省の平成24年度博士課程教育リーディングプログラムに申請していましたが、本学のプログラムが採択となりました。

つきましては、採択プログラムについて、下記のとおり記者説明を予定しておりますので、ご案内いたします。

### 記

1. 日時 **平成24年10月1日（月） 17時00分から（40分程度）**
2. 場所 金沢大学第二会議室（本部棟2階）（金沢市角間町）
3. 説明者 中村 慎一 副学長（教育担当）  
鏡味 治也 大学院人間社会環境研究科・研究科長・教授
4. 内容 博士課程教育リーディングプログラムの採択結果について

本件照会先：広報戦略室 松本  
Tel：076-264-5024

## 金沢大学における博士課程教育リーディングプログラムについて

### プログラム名

文化資源マネージャー養成プログラム

### プログラム概要

本プログラムは、人類文化の多様性とその相互尊重の理念を基盤に、世界各国・各地域で継承されてきた文化資源の将来に向けての意義と有用性を探求し、人類全体に向けたその活用策を案出・実践する「ローカルな文化資源のグローバルな活用を可能にする資源発掘・管理・活用策提案能力を身につけた人材」、すなわち文化資源マネージャーを養成し、多文化共生社会の構築に寄与することを目的とする。文化資源の活用には、観光利用や最先端技術への応用など、豊かな将来性がある一方で、文化的アイデンティティに国の政治的思惑や企業の経済利益が絡んだ対立や衝突が絶えないという課題もある。複雑化した現代社会では、文化資源が持つ有用性を一部の住民や国や企業の権利や利益に留めるのではなく、広く人類全体に開かれた管理・活用策を研究・立案できる能力を備えた人材の育成が急務である。

育成にあたっては東アジア協定校4校（中国：北京大学、ベトナム：国家大学ハノイ校、タイ：チェンマイ大学、インドネシア：バンドン工科大学）から各1名募集する留学生4名と、日本で募集する日本人学生4名の同期生チームで5年間、実践的な学修・研修・調査をおこなう体制をとる。5カ国の学生が多文化環境におかれた中で切磋琢磨し、アイデアを交換・発信しながら、文化資源の活用方策を提言していく点が本プログラムの特色である。

### プログラム実施主体

金沢大学人間社会環境研究科

### プログラム計画期間

平成24年度～平成30年度

### これまでの実績・取組

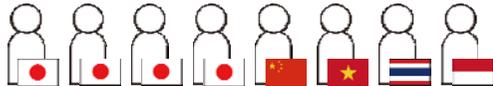
- ・平成19年度 大学院 GP（日本学術振興会）に「プロジェクト研究を通じた自立的研究者養成」プログラム
- ・平成21年度 若手研究者交流支援事業（日本学術振興会）「アジア文化資源学リンケージ金沢セミナーの開催」
- ・平成22年度 日本学術振興会若手研究者海外派遣事業・組織的な若手研究者等海外派遣プログラム「文化資源学フィールド・マネージャー養成プログラム」
- ・平成22年度 人間社会研究域附属 国際文化資源学研究センターを設置
- ・平成23年度 国際大学交流セミナー事業（日本学生支援機構）「文化資源学アジア学生フォーラム」

■ 養成したい人材像：文化資源マネージャー

ローカルな文化資源のグローバルな活用を可能にする人材

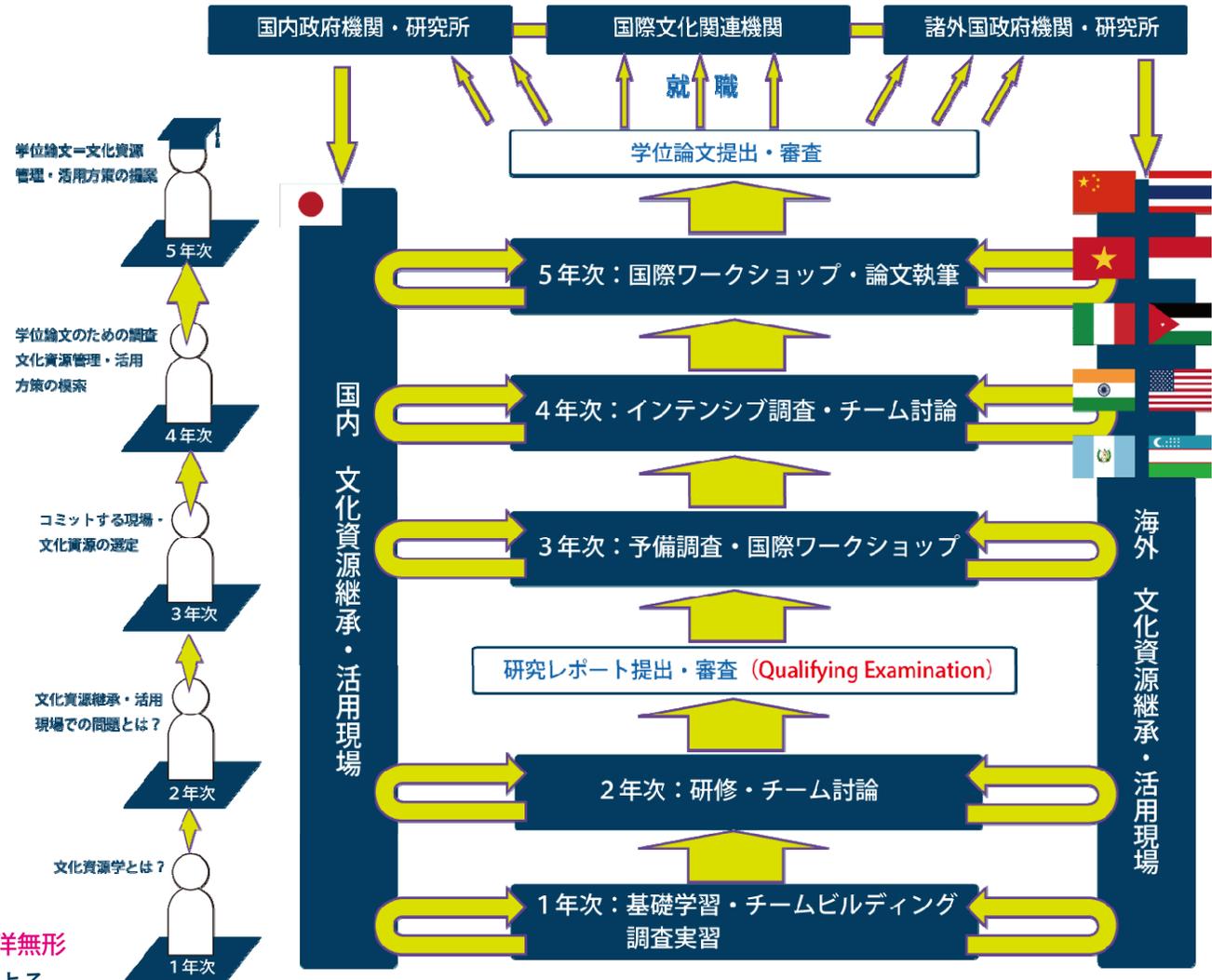
- 文化資源への深い理解に基づく  
マネジメント能力
- 複雑化した現代社会において多様なステークホルダー間を調整する  
ファシリテート能力
- グローバル社会の中で国際連携をとらうる  
ネットワーク能力

■ プログラムの特色



- 5カ国8人の同期生によるグループ学修  
英語を公用語とし、研修・調査・国際ワークショップ運営をチームでおこなう
- 東アジア協定校（中国：北京大学、ベトナム：国家大学ハノイ校、タイ：チェンマイ大学、インドネシア：バンドン工科大学）から質の高い留学生を確保し多文化環境の中で切磋琢磨する
- チームとして教室とフィールドを往還しつつ学修する
- 文化資源継承・活用に先進的な取組をおこなっている金沢市・石川県、アジア太平洋無形文化遺産研究センター、国立民族学博物館による研修・調査先の提供、国際文化資源学研究センター、東アジア協定校教員によるサポート
- 実際に文化資源マネジメントに携わっている学外担当教員との実践的な協働教育

多文化共生のためのリーダー・ネットワーク形成へ



文化資源学の方法論を教授 研修・調査地斡旋等、実践的な学修機会の提供 留学生の推薦

